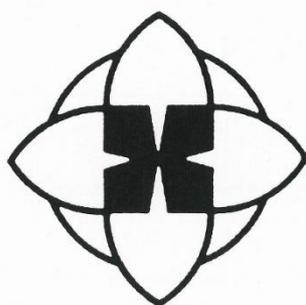


令和7年度

運営に関する計画



最終評価

令和8年3月

大阪市立矢田北小学校

現状と課題

本校は本年度無事創立50周年を迎えた。50周年記念事業も、地域の方々に見守られながら、次の60周年、70周年に向けての新たな出発の事業となった。

今年度も教育活動の推進とともに地域との連携を深めつつ、充実した1年となった。重点の「学力保障」「集団の育成」を軸に取組を進め、授業力向上・体力向上など一定の成果もあったが、不登校対策については、なかなか思うような結果は出ていない現状である。また、外国籍児童も着実に増加し、学力保障にむけての課題も深刻である。

【安全・安心な教育の推進】**全市共通目標(小学校)**

○令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。

⇒ **達成**(74.5%→80.8%→88.9%→82.0%)

○令和7年度末校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

⇒ **達成**(4.17→8.97→8.38→7.73) 6人→14人→14人→13人

毎学期いじめアンケートを実施した他、日々の学級指導による担任による声かけ、タブレットによる相談機能の活用等により、未然防止、早期発見、早期解決に努めた。軽微なものをすばやく発見し、すぐ対応することでいじめ重大事案にならないように努力している。経過観察が必要な案件もあるが、無事解決に至っている。

現在不登校・不登校傾向のある児童は全体で13名と昨年度より減少した。改善した児童もいるが、新たに登校しにくくなる児童もいる。また、家庭環境が安定せず、引き続き関係機関と協力し、見守りを続けていかなければならない児童も多く在籍している。高学年に進級し、「学校を休む」=「学習の遅れ」という負のスパイラルに陥ってしまうとさらに不登校傾向が悪化するため、今後もスクールカウンセラーやSSW、区役所の子どもサポートネットなど、関係機関との連携を深め、よりよい支援を探りつつ支援を続けていく。加えて、外国にルーツのある児童も増えつつあり、言語の壁で、学力保障に支障をきたすことが懸念される。日本語指導を受けている児童は現在3名(昨年度5名)であるが、増加傾向である。

学校の年度目標

○令和7年度の学校アンケート「楽しく学校に通っている」に、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

⇒ **未達成**(84.7%→91.0%→88.8%→83.5%) - 5.3

○令和7年度の学校アンケート「学校のきまりを守っている」に、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

⇒ **達成**(91.9%→92.4%→90.6%→87.4%) - 2.6

○令和7年度の学校教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」に肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。

⇒ **達成**(85.4%→84.7%→91.8%→79.6%) - 12.2

「楽しく学校に通っている」の肯定的な回答が昨年度より下がってしまった。教職員は日頃より児童の気持ちに寄り添い、楽しい学校になるよう集団作りに取り組んでいるが、児童にとって楽しいとは何かを再度考え、取り組みを進める必要がある。また、「きまり」に関しては、生活目標の設定やあいさつ運動等、ルールを守るということについて、その意味や自分の行動について振り返るよう指導した。あいさつについては、向上したが、きまりを守らない部分は少しずつ増えてきている。保護者の価値観や意識変化があり、染髪やピアス等、学校のルールに協力されない事案が増加している。引き続き協力を求めていきたい。今後も道徳教育や人権教育、課内実践等を通して、「相手の気持ちを考えて行動すること」や「心を耕す教育」を推進していく。

次年度も継続して取り組み、本当の意味で行動に移せる児童の割合を増やすことを目指す。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、**40%以上**にする。

⇒ **達成**(32.0%→42.5%→47.8%→40.9%) - 6.9

6年(45.8) 5年(28.0) 4年(48.0) 3年(41.9)

○令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より**0.05ポイント**向上させる。

⇒ **未達成** 6年算(+0.07) ○ 5年算(-0.32) × 4年算(-0.05) ×

○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**80%以上**にする。

⇒ **達成**(49.1%→80.8%→75.5%→74.0%) - 1.5

6年(66.7) 5年(60.0) 4年(76.0) 3年(93.6)

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を**75%以上**にする。

⇒ **未達成**(73.5%→69.7%→71.8%→66.7%) - 5.1

6年(54.2) 5年(56.0) 4年(92.0) 3年(64.5)

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について目標は達成できたが、昨年度よりポイントは下がった。今後も授業の中で話し合う場面を多く取り入れ「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動を進めていく。

算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、算数に関しては、1学年向上できた。引き続き、個に応じた丁寧な指導を続けるとともに授業力の向上に取り組む。

外国語（英語）に関しては、1学年をのぞいてアップした。今後も楽しく英語に触れる機会等を増やし、C-NETとの連携を深め、さらなる授業改善を目指していく。

運動に関しては、なわとび集会やランランタイム、トップアスリート夢授業等の取り組みにより、成果が出た。投てき板やケンケンパーゾーンの設置等、運動できる環境の整備も引き続き進め、体力向上を目指していきたい。

学校の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査の結果が、国語算数の全24観点のうち、10観点が大阪市の平均を上回るようにする。

⇒ 未達成 (8観点→6観点→13観点→3観点/16観点中) 観点変更により

○令和7年度の学校アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を88%以上にする。

⇒ 未達成 (91.9%→89.0%→83.2%→87.8%) +4.6

○「健康週間」を実施し、健康アンケート「せっけんで手を洗った」「ぶくぶくうがい」「安全に過ごす」の項目に対して、1・2学期のアンケートを肯定的に答える児童の割合を共に90%以上にする。

⇒ 達成 「せっけんで手を洗った」(1学期91.9%→2学期95.9%) +4.0

⇒ 未達成 「ぶくぶくうがい」(1学期77.9%→2学期84.6%) +6.7

⇒ 達成 「安全に過ごす」(1学期93.1%→2学期95.1%) +2.0

学力については、今後も研究教科を設定し、教育センターや教育委員会のアドバイスを受けながら、授業力の向上に努めた。また、矢田北タイムや漢字検定、図書館の充実、読書活動（読み聞かせ）やデジタルドリルの活用をさらに進め、引き続き、基礎基本の定着に取り組んでいきたい。

保健の「手洗い」「安全に過ごす」に関しては、90%を超えており目標を達成できている。「ぶくぶくうがい」に関しては、目標には届かなかったが、着実に成果が上がってきている。引き続き取り組みを進めていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）

⇒ **未達成** 年間4日 年間を通して75.5%程度が使用している。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

※基準1・・・1ヵ月の時間外勤務が45時間以下

・・・1年間の時間外勤務が360時間以下

⇒ **未達成** (R5 55.0%→61.9%→57.8%)

目標の「8割以上が使用の目標値」には届いていないが、全体として7割5分の児童は活用している。カウントの仕方等を教育委員会とも意見交換を進め、今後も引き続き ICT の活用に積極的に取り組んでいきたい。ICT を活用した家庭学習に関しては、学年の実態に応じて、できていない学年もある。活用事例の研修などを進め、取り組みを強化していきたい。

教職員の働き方改革（勤務時間の削減）については、今年度は目標を達成できなかった。校時の見直しや会議の調整、教育資料の引継ぎ等を進め、引き続き削減できるように取り組んでいきたい。

学校の年度目標

○学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を**1日1回以上入力**し、児童の心の状態や日々の生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。

⇒ **未達成** 入力率は、(71.9%→80.9%→72.9%→61.7%) - 11.2

○令和7年の学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」に、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。

⇒ **未達成** (54.8%→59.3%→60.1%→58.6%) - 1.5

○学校アンケート「学校は、家庭・地域（見守り活動、読書活動支援、地域交流行事等）等と連携・協働した教育を推進している。」に肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。

⇒ **達成** (95.3%→93.4%→87.4%→95.1%→98.6%) + 3.5

「心の天気」に関しては、子どもの安心・安全のため、継続した取り組みを進める。読書に関しては、60%前後をキープしている。今後も「ほっと（本と）スペース」の活用、「読み聞かせ」読書通帳等の取り組みを進め、読書環境の充実に努めたい。ホームページに関しても保護者メールと連携し、わかりやすいホームページを目指し、情報発信を進めていく。

大阪市立矢田北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標】安全・安心な教育の推進</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 82%以上にする。</p> <p>R4 74.5% ⇒ R5 80.8%→R6 88.9%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> R7年度 82% </div> <p>○令和7年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率を <u>前年度より減少</u>させる。</p> <p>R4 4.17% ⇒ R5 8.97%→R6 8.38% R7 7.73%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和7年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>R4 84.7% ⇒ R5 91%→R6 88.8%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> R7年度 83.5% </div> <p>○令和7年度の校内調査の教育アンケート「学校のきまりを守っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>R4 91.9% ⇒ R5 92.4%→R6 90.6%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> R7年度 87.4% </div> <p>○令和7年度の校内調査の教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 86%以上にする。</p> <p>R4 85.4% ⇒ R5 84.7%→R6 91.8%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 200px;"> R7年度 79.6% </div>	B
年度目標の達成状況	
<p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○今年度は【いじめについて考える日】や人権週間では朝会で全校児童に啓発を行い、考える時間を確保した。各学年で人権週間では取り組みを行っていただいたが、今年度はいじめについての取り組みを必ず行うことと決めなかった。経年調査の結果により3年～6年が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童82%と目標基準に達成することはできた。ただ、学年での結果のバラつきがあり、今後も継続して重点的に取り組みや考える機会を与えていく必要性を感じた。</p>	

○今年度の不登校児童の在籍比率は 7.73%であったので、昨年度の比率に対して減少することができた。

学校の年度目標

○令和7年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合が 83.5%であり、目標に届かなかった。

○令和7年度の校内調査の教育アンケート「学校のきまりを守っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合が 87.4%であり、目標を達成することができた。

○令和7年度の校内調査の教育アンケート「相手の気持ちを考えて行動できる」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合が 79.6%と、目標の 86%には達成することができなかった。

次年度への改善点

全市共通目標(小学校)

○前市での目標に達成はしているものの、学年での結果のバラつきがあり、今後も継続して重点的に取り組みや考える機会を与えていく必要性を感じた。また、取り組みを行うだけではなく、取り組み内容の交流の場を職員間で共有する機会を設けることにより、より一層深みのある取り組みになると感じられる。

○今年度は掲げていた目標に達成することができた。しかし、不登校児童の深刻さが目立っている。学校から足が遠くなってしまった児童に対して、関係機関との連携を図りながら、保護者とどうしていくのがいいか考えるような家庭訪問やケース会議を組んでいく必要がある。

学校の年度目標

○「楽しく学校に通っている」では目標に達成しなかった。児童にとって楽しいとは何なのか、再度考えていく必要がある。児童が楽しいと思える取り組みを行う必要がある。各委員会で休み時間や集会の時間を使って行う。(全校児童おにごっこなど)

○「学校の決まりを守る」で今年度、各学年の結果の差が大きかった。来年度は守れていないきまりを強調週間にあてるところに強化していく。

○「相手の気持ちを考えて行動できる」では、道徳での教材研究や人権週間や学校行事と絡めながら考えるように工夫する。また、学校全体での研究などで取り組んで行うことも検討する。

<p style="text-align: center;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p style="text-align: center;">進 捗 状 況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】(東山) 道徳教育や人権教育（外国人教育、特別支援教育、平和教育など）の充実を図り、互いの考えを交流し合い、命や人権の尊さについて考え、良好な人間関係を目指そうとする集団を育成する。 (道徳教育・人権を尊重する教育・インクルーシブ教育・多文化共生教育の推進)</p>	
<p>指標 (1)道徳教育や人権教育を通し、道徳的価値理解だけでなく自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考える態度を養う。 (2)年間を通じ、平和学習、課内実践（民族講師・老師などとの交流）、特別支援理解教育等を実施し、各学年が学んだことを交流する場を<u>年に一回以上</u>設定する。 (3)人権学習週間を設定し、「ひと・いのち（ひと・ぬくもり）（ひと・つながり）」などを活用した授業や「いじめについて考える」授業を<u>年に3回以上</u>実施する。</p>	B
<p>達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組① ・計画通り実施することができた。 ・1学期には各学年平和登校日に向けて、平和学習を進めることができた。二学期のはじめには、小小連携で長崎原爆交流証言講話の話を聞くことができた。課内実践はソセンニムを中心に取組みを行うことができた。また、WCCでも中国の講師(老師)を招き、文化に触れることができた。特別支援教育ではあかおに事業所との交流により、支えあう大切さやともに生きていくにはどうすればよいかなど考える機会になった。 ・人権学習週間では、児童朝会での啓発や、各学年の取組み内容を確認することで年に3回の授業の確保することができ、また児童・教職員ともに意識をもつことができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組① ・来年度も引き続き取り組んでいく。どの学年で何を取り組むのかわかりやすい年間計画を作成する。各学年の取組みが他の学年にもわかるように、取り組んだ後に職員間での取組み報告研修を行うとよい。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(西村) 毎月生活目標を設定し、各学期に強調週間を設け、全教職員で学校のきまりを指導する。 (問題行動への対応・安全教育の推進)</p>	
<p>指標 ・<u>毎月</u>生活目標を設定し、<u>各学期</u>に強調週間を設け、全教職員で学校のきまりを指導する。グリーティングメダル等を活用し、日頃からあいさつできる習慣を身につけさせる。(見守り隊の方や来校者、職員室への入り方など) (令和7年度も、<u>あいさつを重視</u>して指導する)</p>	A

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組②

- ・児童朝会で毎月の生活目標を全体周知や確認を行った。
- ・各学期のあいさつ週間では、登校してきた時や、廊下ですれ違った時など、自分からあいさつをする児童も多かった。
- ・あいさつをしてシールをもらえるということで、シールを集めることが楽しく、あいさつが苦手な児童もがんばって取り組んでいた。
- ・シールが欲しくて、あいさつをしながら手を出す児童や、週間が終わった後まで続けられている児童が少ないように感じられる。

次年度への改善点

取組②

- ・あいさつを自分から進んで行う児童が増えてきた。しかし、シールを集めることに意欲がわからない児童もいるため、来年度はシール以外のフィードバックの方法も考えていきたい。
- ・あいさつは、だんだんと根付いてきているように感じられるため、次年度は学校のきまりについての学校の決まりについて児童・職員が意識していけるように強調週間を設けてもよいかもしれない。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(高橋)

児童一人ひとりが活躍できる場を設定し、達成感を持たせ自尊感情を高める。また、子どもの発達段階に応じたキャリア教育を推進し、各学年で文化的・体験的な学習を実施する。
(キャリア教育の充実)

- 指標** (1)各学級、学校行事、児童会活動、集会活動などで、発表する場を設定する。
(2)各学年が体験活動を年に**3回以上**計画・実施し、全校児童でも芸術活動を実施する。

(各学年の社会見学、キッズニア甲子園での職業体験、**外部講師を招いての出前授業**、劇や音楽鑑賞、**矢田北まつり、わくわくらんど、校内たんけん** など)

A

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組③

- ・各学級での取り組みや、やたきたまつり、運動会、50周年記念式典、あいさつ週間、児童集会等々、様々な場面で児童が発表する場を設定することができている。
- ・全学年、多くの体験活動を実施することができ、児童にとっては貴重な経験となるものも多かった。各学年3回以上の指標を大幅に上回っている。
- ・高学年に体験学習が集中する傾向にある。

次年度への改善点

取組③

・多くの体験活動を実施することはできているものの、毎年6年生が他の学年と比べても多くなる傾向にあるため、減らしていけるものは減らした方が良い。
・実施時期が2学期に集中する傾向があるため、1学期や3学期に分散させられるものはしたほうが良い。

取組内容④【基本的な方向！安全・安心な教育環境の実現】(東山)

「心の天気」「相談機能」等を活用し、児童の実態把握に努め、指導に生かす。
スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、安心・安全な教育環境を構築する。また、関係諸機関との連携を密にし、多面的・多角的な支援を行い、不登校児童や虐待児童に対して、学校として組織的に対応する体制を構築する。

(問題行動への対応・安全教育の推進)

指標

・令和7年度の校内調査の教育アンケート「楽しく学校に通っている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を **85%以上**にする。

R4 84.7% ⇒ R5 91% ⇒ R6 88.8%

R7年度
83.5%

B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組④

・「心の天気」「相談機能」等を活用することで、児童の変化に気づき、声をかけするなど指導に生かすことはできた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、多面的・多角的な支援を行うことはできた。不登校児童への小チームを構築することで、担任だけで抱え込むのではなく、複数で児童に寄り添うことができた。しかし、小チームからの発信が少なかったため、現状の児童の様子が分かりづらかった。

次年度への改善点

取組④

・「心の天気」「相談機能」を活用することで、児童の気持ちの変化に気づくことはできるが、晴れの児童が「楽しく学校に通う」には直結していない。今一度児童にとっての「楽しい」は何なのか、考える必要がある。不登校児童へのアプローチを複数で行うために、小チームを構築することはできたが、一人が複数チームの指示を担っていたため負担感が大きい。来年度は、学年部で共有する流れを作るために小チームリーダーを決めたい。そして子ども部会などで今行っているアプローチを広め、学校全体で児童に接していくようにしていく必要がある。今年度の小チームを不登校児童対象にしたため、次のアプローチを考えるのに限界があった。来年度は、不登校気味のメンバーの予防対策を考えるようにしていきたい。

大阪市立矢田北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
------	----------

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小学校)

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上 にする。
R4 32.0% ⇒ R5 42.5% ⇒ R6 47.8%

**R7年度
40.9%**

○令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05ポイント 向上させる。
R4 未達成 ⇒ R5 達成 ⇒ R6 未達成

**R7年度
未達成**

○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上 にする。

R4 49.1% ⇒ R5 80.8% ⇒ R5 75.5%

**R7年度
74%**

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上 にする。

R4 73.5% ⇒ R5 69.7% ⇒ R6 71.8%

**R7年度
66.7%**

C

学校の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査において、国語と算数の全24観点のうち、10観点が大阪市の平均を上回るようにする。

R4 8観点 ⇒ R5 6観点 ⇒ R6 13観点

**R7年度
3観点/16観点**

○教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 88%以上 にする。

R4 91.9% ⇒ R5 89.0% ⇒ R6 83.2%

**R7年度
87.8%**

○「健康週間」を実施し、健康アンケート「せっけんで手を洗った」「ぶくぶくうがい」「安全に過ごす」の項目に対して、1・2学期のアンケートを肯定的に答える児童の割合を共に90%以上にする。

**R7年度 石鹸で手を洗った
1学期 91.9% 2学期 95.9%**

**R7年度 ぶくぶくうがい
1学期 77.9% 2学期 84.6%**

**R7年度 安全に過ごす
1学期 93.1% 2学期 95.1%**

年度目標の達成状況

全市共通目標(小学校)

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合は、40.9%であったため指標を超えて達成することができた。研究教科である算数科を中心に、児童が考えを深めたり、広げたりするとき、教師がその考えに適切なフィードバックをすることで、考えを深めたり、広げたりすることにつながった。普段から行うことで、目標が達成できたと考えられる。
- 令和7年度の小学校学力経年学力調査における平均正答率を前年度よりいずれの学年も0.05ポイント向上させることは達成できなかった。6年生は目標を達成することができたが、4、5年生は前年度より低下となった。基礎学力の定着や、学習習慣の定着に課題があることが結果につながったと考えられる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は45%であったため、指標を達成することはできなかった。特に高学年での肯定的な回答が少なく、外国語学習の内容の難度が上がり、苦手意識を持つ児童が増加したことが考えられる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合は66.7%であったため、指標を達成することはできなかった。学年が上がるにつれて最も肯定的な「好き」と答える児童の割合が少なくなっている傾向が本年度も続いている。

学校の年度目標

- 令和7年度の小学校学力経年調査の国語と算数の全24観点のうち、10観点が大阪市の平均を上回るとしていたが、本年度の経年調査は、観点が16観点の変更になっていた。16観点中、3観点のみ大阪市平均を上回る結果となり、指標は達成できなかった。特に高学年は大阪市平均を上回った観点が0と厳しい結果となった。
- 教育アンケートの「外で遊んだり、運動したりすることが好きである」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は87.8%であったため、指標を達成することはできなかった。前年度と比べると上昇した。
- 健康アンケートの「せっけんで手を洗った」「ぶくぶくうがい」「安全に過ごす」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合は、1学期よりすべての項目で向上したが、「ぶくぶくうがい」のみ84.6%と指標を達成することはできなかった。

次年度への改善点

全市共通目標(小学校)

- 引き続き継続して、普段の授業の中でフィードバックをし、児童が友達と考えを深めたり、広げたりすることができるようにしていく。
- 高学年の基礎学力の定着ができていないことが露呈する結果となったため、朝の矢田北タイムの活用や、家庭学習の工夫が必要である。また、授業時間等の見直しによる空き時間等に、個別最適な学びとして、各自の基礎学力の向上に充てていく必要がある。
- 外国語(英語)については、happy time や C-net との連携を継続して行っているが、年々内容の難化が進んできており、児童の英語に対する苦手意識が出てきていると考えられるため、英語に触れあう時間の増設が必要である。
- 運動やスポーツをすることについては、高学年になるにつれて肯定的な回答をする児童が減少しているため、高学年の数値を上げていく。そのためには、低学年から基礎的な体の使い方を身につけることや、高学年でも「できた」と楽しめるような授業の工夫をしていきたい。

学校の年度目標

- 高学年は大阪市の平均をすべての項目で下回っているので、基礎学力の向上を行う必要がある。。
- なわとび週間やランランタイムほど大きな体育的行事ではないが、暑い日も寒い日も、児童が外に出てみたくなるような小イベントを開催することで、外で遊んだり、運動したりすることが好きな児童を増やしていきたい。
- 健康アンケートの各項目に肯定的に答える児童を全項目4%向上させることはできたが、目標の数値には達成できなかったため、引き続き集会や放送等を活用して児童に周知していく。特に「ぶくぶくうがい」に関してはコロナ渦での入学の影響で習慣づいていない児童が多いので、強調して指導していく必要がある。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力向上】(久留)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で授業研究や討議会、一人一授業を実施し、教員の授業力を向上させる。 ・課題に向き合う力や自分の考えを表現する力の定着、ポジティブ行動支援等の指導法についての研究を進める。 <p>(言語活動の充実(思考力・判断力・表現力の育成))</p> <p>指標 ・各学年 <u>1回以上</u>の研究授業、討議会の実施、外部講師による全体研修会を <u>5回以上</u>実施する。</p>	A
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年計画通りに研究授業を実施することができた。特に本年度は2学期中にすべての大の授業を終えることができたので、余裕をもって研究の振り返りを行うことができた。 ・外部講師による全体研修会は、討議会をはじめ、PBS 研修や HPQU 研修を通して指標以上に実施することができた。 	
次年度への改善点	
<p>取組①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業は、直前になって日程を決めないように、あらかじめ日程を決めて行えるようにしていく。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】(福泉)</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>(「主体的・対話的で深い学び」の推進・個別支援の充実)</p> <p>指標 ・矢田北タイムの設定や放課後学習、家庭学習を通して、基礎学力の定着・向上を目指す。日記学習や自主学習等の家庭学習を、<u>週1回以上</u>取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ツール navima (ナビマ) やスタディサプリーの活用を進める。<u>週1回以上</u>取り組む。 ・低、中、高学年向けの家庭学習の手引きを懇談会等で活用する。 	B
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日記学習や自主学習は、1年生はそうじの時間のふり返りに日記として感想や頑張ったことを書いたり、2年生は自主学習を毎日の課題として設定したりすることで達成することができた。3～6年生は、日記指導や自主学習を取り組んだが行事等の影響により月2回程度の実施となった。 ・ナビマやスタディサプリーの活用は、1～3年生は授業中や宿題での活用で達成をすることができたが、4～6年生は授業時数の関係で目標には達成することができなかった。 ・2学期懇談会にて、保護者に説明および配布を行い、活用することができた。 	

次年度への改善点		
<p>取組②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢田北タイム・家庭学習について実施する目的を明確に定め、目的に沿った内容を実践していく。 ・学年ごとに自主学習の取り組み方を設定する。1・2年生は日記、3～6年生は自主学習一覧などを作成し、その中から選択するなど。回数を月2回にしてはどうか。 ・ナビマやスタディサプリの活用を継続的に促していく。 		
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】(森田)</p> <p>体育科の授業や体育的行事を通して、運動する喜びを実感させる。また、児童が運動することが楽しくなるような環境整備を進める。</p> <p style="text-align: right;">(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとび集会やランランタイム等、全校児童が楽しく参加できる体育的行事を実施する。 ・スポーツ「夢・事業」など、外部講師を招いた体育授業を<u>年2回以上</u>行い、生涯スポーツへつなげる。 	A	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>取組③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとび集会やランランタイムの体育的行事を予定通りに実施することができた。 ・夢授業を2回実施することができた。「ラグビー」と「スナッグゴルフ」を体験し、楽しく運動をすることができた。 ・投擲板やケンケンパズーンを設置し、楽しく運動することができる環境を工夫した。 		
次年度への改善点		
<p>取組③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢授業を体育の学習につなげていけるようなものにするために指導計画の工夫をする。 ・なわとび集会やランランタイムは児童が前向きに取り組んでいた一方で、運動が楽しいと感じている児童は減っている。そのため、新しい体育行事や、環境整備に取り組む必要がある。 		
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】(辻上)</p> <p>健康な身体をつくるために、規則正しい生活習慣を身につける。</p> <p>(虫歯の減少、けがの防止、手洗いうがいの習慣化)</p> <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食後の「ぶくぶくうがい」や「歯」に関する授業の実施、歯科受診の啓蒙等を進める。1・2学期に健康アンケートを実施し、「ぶくぶくうがい」に関する項目について、肯定的に答える児童の割合を共に90%以上にする。 	B	

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組④	<ul style="list-style-type: none"> ・健康週間では、委員会の児童がぶくぶくうがいや手洗いなどの呼びかけを行った。また、歯科保健事業や歯みがき大会への参加、保健指導で歯に関する指導を行った。 ・ぶくぶくうがいに関する項目では、1・2学期ともに90%以上には達成できなかったが、1学期と比較して、2学期は数値が6.7%向上することができた。 ・教室での喫食では、手洗い場まで距離があることや、食べるのが遅い児童はぶくぶくうがいができなかった。
次年度への改善点	
取組④	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歯科保健事業の活用や、歯に関する指導を通じて、自分の歯に関心を持てるような取り組みを続けていく。 ・今後は、ランチルームでの喫食とし、複数教員による見守り体制を強化することで、適切な声かけの充実を図る。 ・手洗い場に近い環境を活用し、食後のぶくぶくうがいの実施を促進する。

大阪市立矢田北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
 C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p style="text-align: center;">R7年度 年間4日</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R5 55.0% → R6 61.9%</p> <p style="text-align: center;">※基準1・・・1ヵ月の時間外勤務が 45時間以下 ・・・1年間の時間外勤務が360時間以下</p> <p style="text-align: right;">R7年度 57.89%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○学習者用端末でスクールライフノートの「心の天気」を必ず1日1回以上入力し、児童の心の状態や日々の生活の状態を可視化し、児童理解を深め、指導に生かす。(1年生は、2学期から 2～6年生は、5月から)</p> <p style="text-align: center;">入力率を80%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 入力率71.9% ⇒ R5 80.9% ⇒ R6 72.9%</p> <p>○令和7年度の校内調査の学校アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 54.8% ⇒ R5 59.3% ⇒ R6 60.1%</p> <p style="text-align: right;">R7年度 58.6%</p> <p>○令和7年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 93.4% ⇒ R5 87.4% ⇒ R6 95.1%</p> <p style="text-align: right;">R7年度 98.6%</p>	B

年度目標の達成状況	
<p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○年間で達成が4日ということで、かなり設定が厳しいように感じる。</p> <p>○昨年よりは下がっているが、60%には近い。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○学年により、差がある。</p> <p>○昨年まで、徐々に向上してきているが、本年度は少し下がっている。しかし、60%には近い状況である。</p> <p>○年々向上してきており、本年度は100%に近い数値になっている。</p>	
次年度への改善点	
<p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○何をどうしたら、達成できるのかや算出する計算方法を統一する必要がある。また、学習者用端末を使用するメリットが少なく感じるので、使いやすい状況や使いたくなる方法を考えていく必要がある。</p> <p>○学校の行事や取り組みを毎年精選していく必要がある。児童にとって良い取り組みという理由から何でも取り入れすぎてしまう傾向があるので、取り入れたら、別の何かを取りやめるなどしていかなければならない。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○「心の天気」を入力しないといけないから「することで得をする」「することで楽になる」というメリット感が必要である。</p> <p>○読書に対しての取り組みを優先するのか、スタサプの稼働率を上げるのかで、隙間時間の使用方法が変わってくると思う。また、朝の時間で読書タイムを固定で作るか掃除時間を月・水・金にして火…ハッピータイム、木…読書タイムを位置づけする。</p> <p>○東小とのフットサルや花の植え替えなど PTA との交流が増えてきている。また、ミマモルメでの配信や HP の更新が盛んだったこともあるので、継続兼ブラッシュアップしていく。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】(合羽)</p> <p>ICTを活用した教育やプログラミング教育に取り組み、児童の思考力・表現力を育てる。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 ・授業日において、出席児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)</p> <p style="text-align: center;">R7年度 年間4日</p>	C
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組①</p> <p>年間授業日の50%に対し、年間4日しか達成できなかった。学習や朝の時間など十分な時間を確保することが難しかった。また、タブレットを家に忘れていた児童もいたため、学校での入力ができないこともあった。</p>	
次年度への改善点	
<p>取組①</p> <p>授業におけるICT活用をより円滑に進めるため、学習用端末を持参することについて、日常的な声かけを行い、準備の習慣化を図る。</p> <p>また、学びのポータルを確実に開くことを徹底するため、児童が自ら進んでアクセスしたくなる工夫を行う。例えば、学びのポータル上にクイズや当日の給食献立など、児童にとって身近で興味をもてる内容を記載し、活用意欲を高めるようにしてもよい。</p> <p>さらにICT活用のための時間を確保する手立てとして、放送等を活用し、タブレット時間を設定する方法もあってもよい。</p> <p>ICT支援員の来校時に各学年の配置も検討していく。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】(岡田)</p> <p>スクールライフノートの「心の天気」やデジタルドリル・スタディサプリも活用し、児童のタブレット使用率を向上させる。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 ・「心の天気」入力率を80%以上とする。 (R4 71.9→R5 80.9%→R6 72.9%)</p>	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組②</p> <p>○声かけを続けて、入力を促す。</p> <p>○くもり、雨、かみなりの入力を確認した際は、児童にどうしたのか確認をする。</p>	C

次年度への改善点		
取組② ○数値の算出のしかたをわかりやすくする。 ○みんなが取り組める体制をつくる。		
取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（北林） 火（月2回）・金曜日を「ゆとりの日」に設定し、 原則 17:30 退勤を実施する。 （働き方改革の推進）		B
指標 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にす （R5 55.0%→R6 60.1%） 1日2時間程度	R7年度 57.89%	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組③ 60%に対してあと少し届かなかった。1日2時間程度ということで、出勤時間の前残業も含まれるためその辺りの意識も必要である。また、校務分掌や委員会活動の朝の準備などの仕事量の偏りもあるので、行事や取り組みの精選が必要である。		
次年度への改善点		
取組③ ゆとりの日を保護者にも意識させ、ゆとりの日はTELを17時でセットするなどして、実質の業務時間の負担を軽減させる。また、6年生は11月にスポーツ交歓会やこころの劇場が入ってくるがあるので、その場合は予定していた社会見学などを見送ることも検討してもよい。退勤後に持ち帰りの仕事をしている教員もいるが、持ち帰りの仕事の内容が運営に必要な仕事なのかどうかも検討していかなければならない。ゆとりの日以外でも、退勤する時間の目安を設定してもよいかもしれない。		
取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】（近藤） 図書館開放等、学校司書や読み聞かせボランティアとの連携のもと、意欲をもって読書に親しむ環境を整える。（読書通帳や読み聞かせ会等の読書の楽しさを伝える取り組みを進める） （学校図書館の活性化）		B
指標 ・図書館や「ほっとスペース」の利用を増やし、令和7年度の校内調査の学校教育アンケート「学校や家ですすんで読書をしている」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を 60%以上 にする。 <u>R4 54.8%→R5 59.3%→R6 60.1%</u>	R7年度 58.6%	

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
<p>取組④</p> <p>目標には 1.4%届かなかったが、読書に親しむ環境や取り組みを実施することで、意欲をもって読書活動に取り組む児童の姿が見られた。今年度、「ほっとスペース」を児童がよく通る場所に移したことで、休み時間に「ほっとスペース」で本を読む児童が増えた。</p>			
次年度への改善点			
<p>取組④</p> <p>本を読む児童とあまり読まない児童の差が大きいので、あまり読まない児童も本を見る機会（校内の読書強調週間や朝の読書時間等、一斉読書の時間など）を設けるのもよいのではないかとと思われる。また、アンケート項目を「学校または家で読書をしている」とするほうが、児童も意味を捉えやすくなるのではないかと。</p>			
<p>取組内容⑤【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（北林）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年だよりやホームページ、<u>ミマモルメ等の活用</u>、<u>定期的な家庭連絡</u>で児童の活動や学校の様子を伝え、連携を深める。 ・地域行事の交流活動を通して、<u>地域の方の思いを知り、感謝する気持ちを育てる</u>。 ・やたきたまつりの出店や茶道体験等、地域人材と連携し、交流を深める。 <p style="text-align: right;">（地域学校協働活動の推進）</p>	A		
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の校内調査の教育アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働した教育を推進している。」の項目に対して、肯定的に答える保護者の割合を <u>85%以上</u>にする。（R5 87.4%→R6 95.1%） 	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">R7年度</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">98.6%</td> </tr> </table>	R7年度	98.6%
R7年度			
98.6%			
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
<p>取組⑤</p> <p>PTAの交流も増え、盛んになってきている。また、定期的にミマモルメでも配信しているので、保護者への開けた学校のアピールにもつながっている。重要な配布物や泊を伴う行事でもHPやミマモルメを活用して状況がリアルタイムに近い状況で分かるように配信していたのもよかった。</p>			
次年度への改善点			
<p>取組⑤</p> <p>東小やPTAとのフットサルや花の植替えなども継続しながら、保護者に運動会や夏祭り、餅つき大会などの参加も促していきたい。ミマモルメの配信も継続していく。現在はHPやミマモルメの配信ができる教員が少ないが（HP更新のため）入力できる教員が増えることで、活用率は向上が見込める。また、配布文書もペーパーレス化を推進して、できる限りミマモルメ配信をすることで活用率の向上が見込める。しかし、電子での配信は多くのチェックや確認（誤配布や文字化けなど）が必要になるので、業務としての負担が大きくならないかが懸念される。</p>			